1. 山にかわったことがあったら連絡(れんらく)してください!!

駒ヶ岳の火山活動に関して異常現象を発見した人は、そのことを電話等の早い方法で各町役場または警察署・警察官駐在所及び各町消防本部(署)・消防分団・森測候所に連絡してください。

名　称	電話番号	名　称	電話番号
森町役場	01374-2-2181	南茅部町役場	01372-2-5111
砂原町役場	01374-8-3111	七飯町役場	0138-65-2511
鹿部町役場	01372-7-2111	森測候所	01374-2-2236

異常現象

湧水の変化
湧水量や濁りの変化
新しい湧水
湧水の温度の変化
臭いの変化

噴気の変化
新しい噴気や噴煙
噴気量や色の変化
噴気口の拡大
臭いの変化

湖・川の変化
変色・濁り
水温の上昇
大量の水泡
臭いの変化
魚介類の死滅

地形の変化
土地の隆起・沈降
地割れや山崩

地震の頻発
鳴動・地鳴り

2. 気象庁の火山情報に、注意しましょう!!

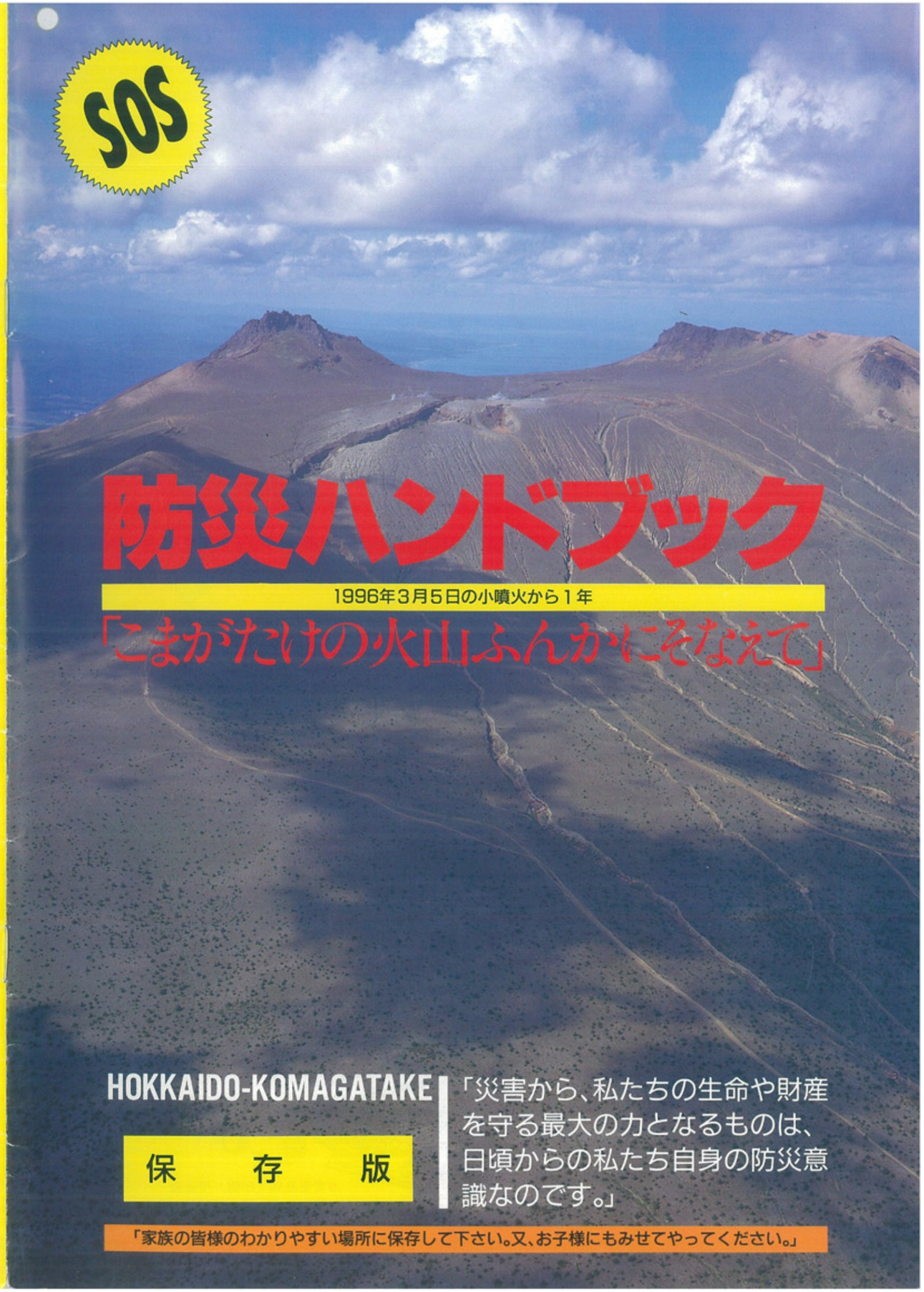
気象庁は火山に異常現象や噴火活動があったとき、直ちに「火山情報」を発表して、注意警戒を呼びかけます。また、駒ヶ岳を含む国内の19の活動的な火山について、火山の活動状況を定期的に発表しています。

緊急火山情報(きんきゅうかざんじょうほう)	生命、身体にかかわる火山活動が発生した場合に随時発表します。
臨時火山情報(りんじかざんじょうほう)	火山活動に異常が発生し、注意が必要なときに随時発表します。
火山観測情報(かざんかんそくじょうほう)	緊急火山情報、臨時火山情報を補うなど、火山活動の状況を定期または臨時にきめ細かく発表します。
定期火山情報(ていきかざんじょうほう)	駒ヶ岳などの常時観測を行っている活動的な火山について、火山活動の状況を定期的に発表します。

- **火山性地震**：火山体の内部または火山地域で発生する震源の浅い地震を、火山地域以外で発生する通常の地震と区別し、火山性地震という。
- **火山性微動**：火山地域で火山活動に起因するとみられる振動(火山性地震以外の)が観測されることがある。
  このような振動を火山性微動または火山微動（脈動）という。

駒ヶ岳火山防災会議協議会　森町・砂原町・鹿部町・南茅部町・七飯町

協議会事務局：北海道茅部郡森町字御幸町144-1／森町役場：TEL(01374)2-2181・FAX(01374)2-3244



SOS

防災ハンドブック

1996年3月5日の小噴火から1年

「こまがたけの火山ふんかにそなえて」

HOKKAIDO-KOMAGATAKE

保　存　版

「災害から、私たちの生命や財産を守る最大の力となるものは、日頃からの私たち自身の防災意識なのです。」

「家族の皆様のわかりやすい場所に保存して下さい。又、お子様にもみせてやってください。」

緊急時

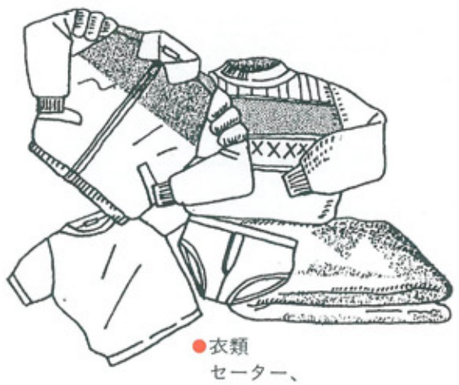
いざという時の避難のため！ その1

これが基本です

あまり欲ばると安全な避難に支障をきたすので荷物は最小限に。男性の場合で最大15kg、女性で10kg程度がひとつの目安です。

非常持出品はこれで十分

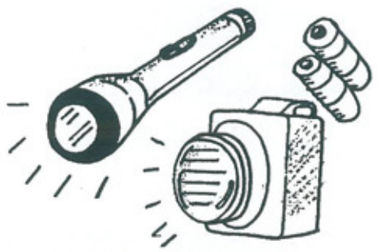
●携帯ラジオ
（予備電池も忘れずに）



●衣類
セーター、ジャンパー類（夏でも必要）、下着1組、毛布など）

非常持出品

自分の命は自ら守る!!
「備えあれば憂いなし」



●懐中電灯（予備電池も）

●貴重品類（印鑑、預金通帳、株券、現金など）

●その他
（マッチやライターなどの発火用具、ローソク、十徳ナイフ、ビニールシート、コップ、缶切り、大小のポリ袋など）

●応急医薬品
（目薬、傷薬、胃腸薬、脱脂綿、絆創膏、包帯、生理用品、クレオソート丸、抗生物質など）

●食料品・飲料水
（乾パン、缶づめ、ビスケット、チョコレート、チーズ、携帯用飲料水など）

追加1 赤ちゃんがいる場合

●ほ乳ビン
●紙おむつ
●ミルク

追加2 お年寄りがいる場合

●看護用品
●おむつ

追加3 あれば便利なもの

●マスク
●じん眼鏡
●さらし
●ロープ
（直径12mm以上で、長さが10m以上のもの）
●ホイッスル

緊急時

いざという時の避難のため！ その2

気象台が発表する火山情報に注意しましょう

町長から避難勧告などの指示があった場合はそれに従いましょう。

ラジオやテレビ、新聞、行政機関の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。

デマに惑わされないようにしましょう。

いざという時の避難のため！ その3

避難する場合の心得

- 戸締りに十分注意しましょう。
- 火の元に注意し、ガスの元栓を閉め、火災が発生しないようにしましょう。
- 携帯品は、限られた必要なものだけとしましょう。
- 服装は軽装で、頭巾・ヘルメットなどを着用し、防じん眼鏡・マスク・防寒用具などを携帯しましょう。
- 行動は誘導者の指示に従い、うわさによる軽はずみな行動はやめましょう。
- あわてず、落ち着いてすみやかに行動しましょう。
- お年寄り、赤ちゃん、身体の不自由な人の避難を助けましょう。
- 市街地では、車は使わず、徒歩で避難しましょう。

素早く、あわてず避難場所へ！ その4

1. 避難誘導者

避難誘導は、町災害対策本部員、消防署員、消防団員及び警察官その他このことについての指示を受けた人が協力し実施します。

2. 避難順位

避難をさせる場合は、老人、幼児、傷病者、身障者及び婦人を優先的に避難させます。

3. 避難方法

避難には、３つの方法がありますが、町災害対策本部長が、噴火の規模、避難開始の時期、交通状況等を考慮し、状況に応じて適切な避難方法を指示します。

①自力避難

徒歩等により、住民が自力で、一般避難場所または臨時集合場所へ避難する方法

②救出避難

残留地域住民、負傷した人たちを危険地帯から救出し、一般避難場所または臨時集合場所へ避難する方法。

③集団避難

一般避難場所または臨時集合場所に集合した人を、災害対策輸送車両で集団的により安全な避難場所へ避難させる方法。

緊急時

一般避難場所及び臨時集合場所

『避難に際しては、噴火の規模や災害の状況などを判断し、町が適切な避難場所や臨時集合場所を決め、皆様に防災行政無線などの手段により、連絡いたします。』

もり町

森町 一般避難場所

避難地域又は地区名	避難場所	収容可能人員
赤井川・駒ヶ岳地区	赤井川小学校	350
	赤井川特別母と子の家	70
	大規模年金保養基地グリーンピア大沼	2,000
	駒ヶ岳小学校	470
	駒ヶ岳特別母と子の案	75
	姫川小学校	80
	姫川福祉会館	40
尾白内町・白川地区	尾白内小学校	660
	尾白内保育所	150
	尾白内生活館	80
	尾白内南部生活改善センター	50
	森町農業集落センター	60
港町・東森町地区	東森生活館	60
	港町保育所	80
	森町漁村センター	110
御幸町・清澄町・森川町・常盤町・新川町・上台町・本町・鳥崎町・姫川地区	森町福祉センター・森町公民館	980
	森小学校	2,800
	森保育所	150
	森青少年会館・柔道部	200
	緑の家(森町身体障害者福祉会館)	80
	森幼稚園	200
	みどりヶ丘会館	140
	森町上台地区活性化支援センター	110
	森高等学校	2,500
	森町民体育館	1,000
	森川児童館	50
	森町基幹集落センター	360
	森川・姫川生活改善センター	80
	森中学校	2,600
	新川保育所	80
	常盤福祉会館	80
	新川老人いこいの家	70
	鳥崎生活改善センター	85
	姫川小学校	80
	姫川福祉会館	40
鷲ノ木町・富士見町地区	鷲ノ木小学校	340
	鷲ノ木保育所	55
	鷲ノ木生活館	80
	鷲ノ木史跡資料館	40
	法輪寺	100
	霊鷲院	165
蛯谷町・本茅部町地区	石谷小学校	450
	蛯谷生活館	85
	本茅部福祉会館	60
石倉町地区	石倉小学校	500
	石倉生活館	50
	石倉西部福祉館	50
	下濁川生活改善センター	80
濁川地区	濁川小学校	400
	濁川生活改善センター	70
	濁川地区会館	50
三岱地区	三岱地区会館	60

森町 臨時集合場所

青葉ヶ丘公園	鷲ノ木小学校グランド
オニウシ公園	姫川小学校グランド
森町民野球場	駒ヶ岳小学校グランド
森中学校グランド	赤井川小学校グランド
旧森中学校グランド	石谷小学校グランド
森小学校グランド	石倉小学校グランド
尾白内小学校グランド	濁川小学校グランド
尾白内運動広場	

さわら町

砂原町 一般避難場所

避難地区又は地区名	避難場所	収容可能人員
二ッ山・沼尻地区	沼尻コミュニティセンター	290
彦澗地区	彦澗集落センター	350
	定規寺　(予備)	300
会所町地区	郷土資料館	470
	神社社務所	360
	神昌寺　(予備)	310
四軒町地区	母と子の家	510
紋兵ヱ砂原地区	砂原中学校	2,620
	さわら小学校	3,220
	紋兵ヱ砂原会館	580
	さわら幼稚園	290
	砂原町民会館	820
	ふるさと交流館	500
掛澗度杭崎地区	児童館	470
	慈光寺　(予備)	250
	称名寺　(予備)	300
場中地区	婦人会館	480
小石崎押出地区	生活館	370

砂原町 臨時集合場所

旧沼尻小学校グランド	砂原町民グランド
旧砂原小学校グランド	さわら幼稚園グランド
砂原中学校グランド	旧掛澗小学校グランド
さわら小学校グランド	

しかべ町

鹿部町 一般避難場所

避難地区又は地区名	避難場所	収容可能人員
大岩全域地区	大岩生活改善センター	48
～	リハビリー体育館	170
鹿部第4町内会	シシベ生活館	57
鹿部第5町内会	鹿部会館	91
～	鹿部小学校	1,000
宮浜全域地区	老人いこいの家	64
	宮浜生活館	50
	宮浜児童館	97
	鹿部中央公民館	480
	しかべ幼稚園	260
	鹿部小学校	870
本別全域(やすらぎの里を含む)・相泊・駒見地区	鹿部総合体育館	1,000
	本別生活改善センター	69
	本別会館	73
	出来澗会館	52

鹿部町 臨時集合場所

鹿部小学校グランド	鹿部中学校グランド
鹿部総合体育館	鹿部山村広場グランド
リハビリ「あいの家」　(予備)	

みなみかやべ町

茅部町 一般避難場所

避難地区又は地区名	避難場所	収容可能人員
古部地区	古部小学校	350
	古部会館	74
木直地区	白井川会館	50
	木直小学校	443
	木直保育園	127
	木直基幹集落センター	159
	ポン木直会館	89
尾札部地区	見日生活改善センター	91
	尾札部中学校	847
	黒鷲会館	67
	尾札部母と子の家	126
	尾札部保育園	198
	磨光小学校	631
川汲地区	川汲母と子の家	110
	町民の庭	588
	町民運動公園	3,685
	南茅部福祉センター	349
	南茅部高校	749
安浦地区	漁村センター	107
	青少年会館	189
	母子健康センター	34
臼尻地区	臼尻小学校	636
	臼尻保育園	190
	スポーツセンター	658
	臼尻生活改善センター	216
豊崎地区	臼尻中学校	599
大船地区	大船保育園	108
	町民保養センター	169
	大船小学校	440
	大船母と子の家	146
双見・岩戸地区	双見生活館	49
	磯谷生活改善センター	85
	磯谷小学校	367
	望路会館	60

茅部町 臨時集合場所

古部小学校グランド	臼尻小学校グランド
木直小学校グランド	臼尻中学校グランド
尾札部中学校グランド	大船小学校グランド
磨光小学校グランド	磯谷小学校グランド
南茅部高校グランド	町民運動公園
大船地区緑地広場	

● お父さん、お母さんに「ひなん場所」をおしえてもらってください。

緊急時

一般避難場所 及び 臨時集合場所

『避難に際しては、噴火の規模や災害の状況などを判断し、町が適切な避難場所や臨時集合場所を決め、皆様に防災行政無線などの手段により、連絡いたします。』

なな え 町

七飯町 一般避難場所

避難地域又は地区名	避難場所	収容可能人員
大川地区	七飯農村勤労福祉センター	130
	大川美園振興会館	60
	東大川振興会館	70
	旧大中山公民館	700
大中山地区	大中山コモン	460
	大中山小学校	700
	大中山中学校	1,000
中島地区	中島会館	35
豊田地区	豊田会館	60
鶴野地区	鶴野会館	50
	鶴野小学校	70
緑町地区	緑町児童館	100
本町・鳴川町地区	鳴川振興会館	60
	本町見晴会館	50
	本町振興会館	90
	七飯町スポーツセンター	620
	七飯町社会福祉センター	420
	七重小学校	800
	七飯中学校	1,200
	七飯町文化センター	700
桜町地区	桜町振興会館	80
藤城・上藤城地区	藤城公民館	100
	藤城小学校	540
峠下・仁山地区	峠下公民館	90
	峠下小学校	380
大沼町地区	南北海道大沼婦人会館	530
	大沼公民館	80
	大沼小学校	740
軍川・上軍川地区	軍川振興会館	100
	軍川小学校	350
	大沼中学校	480
東大沼地区	東大沼地区生活館	70
	東大沼小学校	170
西大沼地区	西大沼老人憩の家	70
	西大沼小学校	180

七飯町 臨時集合場所

大中山小学校グランド	峠下小学校グランド
大中山中学校グランド	大沼小学校グランド
鶴野小学校グランド	大沼中学校グランド
七重小学校グランド	軍川小学校グランド
七飯中学校グランド	東大沼小学校グランド
藤城小学校グランド	西大沼小学校グランド

火山防災ビデオをご覧ください。

「駒ヶ岳が怒った時」

— 備えあれば憂いなし —

駒ヶ岳火山防災会議協議会では、駒ヶ岳の火山噴火に備え、「駒ヶ岳が怒った時—備えあれば憂いなし—」という22分の火山防災ビデオを制作し、防災関係機関、学校等に配布をし、役場（防災担当課）や図書館では貸出もしています。

このビデオは、駒ヶ岳の歴史、昭和４年大噴火の記録、防災体制、噴火に備えて、避難等の内容から構成されています。

特に、ヘリコプターによる山頂や周辺地域の空撮、昭和４年大噴火の記録映画、いざという時の準備や避難等を多く入れ制作していますので、この防災ハンドブックを読みながらビデオをご覧ください。

わが家の緊急連絡先

連絡先	電話番号

わが家の避難場所

避難場所	備考

緊急時のおぼえ書き

●お父さん、お母さんに「ひなん場所」をおしえてもらってください。

駒ヶ岳火山の概要

駒ヶ岳は大沼国定公園内にあり、内浦湾を隔てて有珠山とほぼ南北に相対する安山岩の成層火山である。

頂上には、北壁の砂原岳、西壁の剣ヶ峯、および南側の馬ノ背から隅田盛に囲まれた直径約2kmの火口原があり、火口原から東に開いた凹地を馬蹄形火口という。

また、剣ヶ峯と砂原岳を結ぶ鞍部(駒ノ背)の北西側は、崩壊により深くえぐられた形状を呈しており、ここは押出沢爆裂火口と呼ばれている。

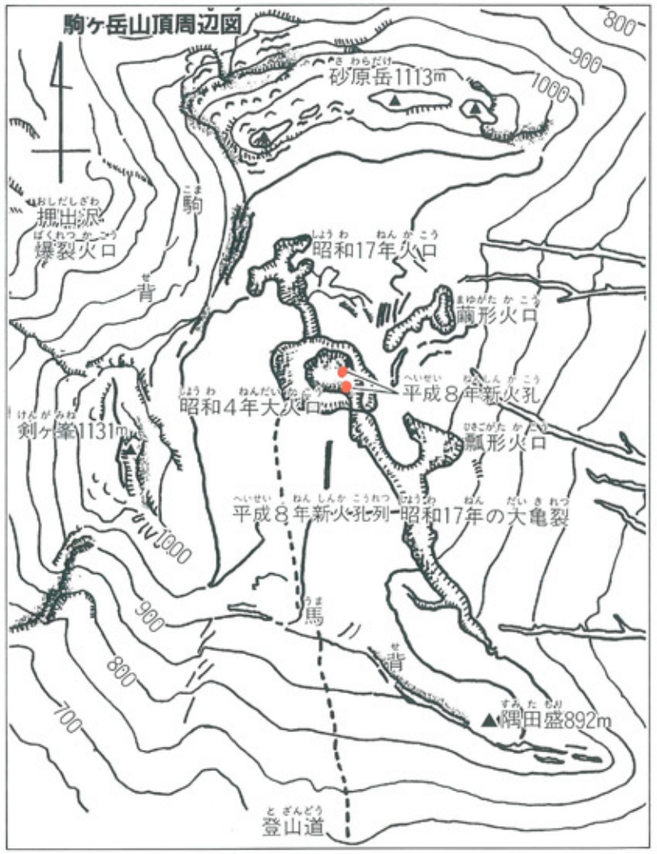
火口原内は軽石に埋積され比較的平担で、中央部に直径約250m、深さ約80mの昭和4年大火口の他数個の火口がある。

昭和17年の噴火では、昭和4年大火口を通る長さ約1.6kmの大亀裂を生じ、その内部や火口壁沿では現在も弱い噴気活動を続けている。

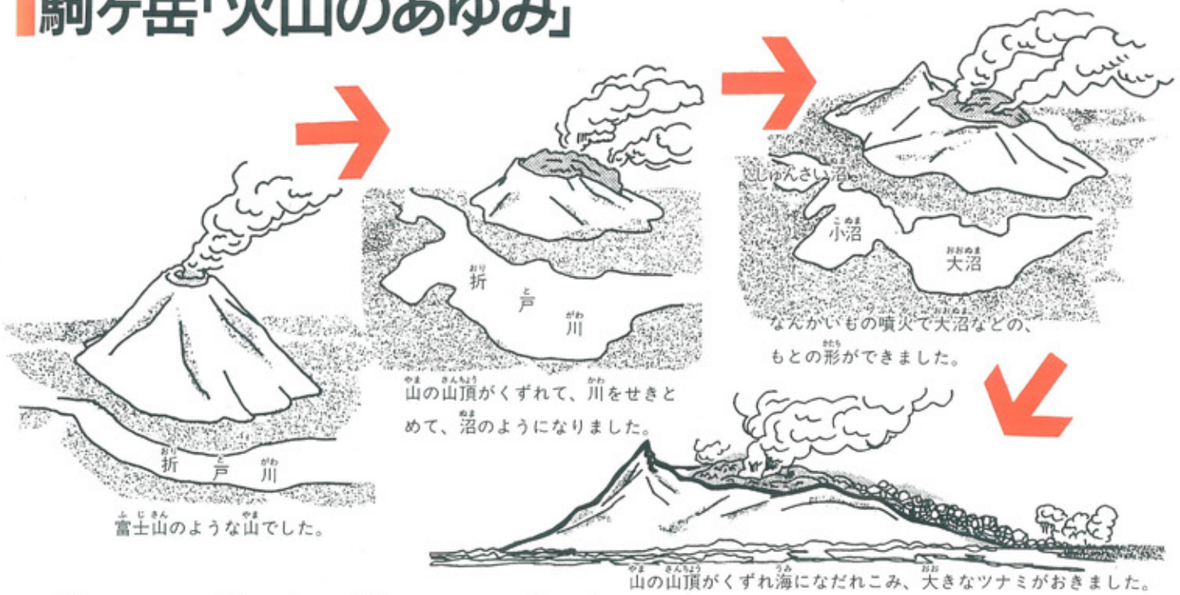
平成8年3月5日に昭和17年の噴火以降54年ぶりに小噴火をした。

この小噴火で、昭和4年の火口に2つの新火孔、南方火口原に約200mの火孔列が形成された。

現在、噴気活動等は小噴火直後に比べ弱くなったが続いている。



駒ヶ岳「火山のあゆみ」



大きな噴火、小さな噴火がありました

噴火のあった時			大きさ	内容
かんえい(寛永)	17年	1640年	**大ふんか**	やまの山頂がくずれて海(噴火湾)になだれこんで、ツナミがおきて、約700人が死にました。
げんろく(元禄)	7年	1694年	ふんか	くわしくわかりません。
めいわ(明和)	2年	1765年	小ふんか	くわしくわかりません。
てんめい(天明)	4年	1784年	小ふんか	小さなふんかがありました。
あんせい(安政)	3年	1856年	**大ふんか**	やまの山頂に大きな安政火口をつくった。ふってきたかる石で2名、高い温度のかる石の流れによって、約20名が死にました。
めいじ(明治)	21年	1888年	小ふんか	安政火口のなかで小さなふんかがありました。
めいじ(明治)	38年	1905年	小ふんか	ふんかの後の雨により、どろの流れが畑をおそいました。
たいしょう(大正)	8～13年	1919～24年	小ふんか	1919・1922・1923年に小さなふんかや活動がありました。
しょうわ(昭和)	4年	1929年	大ふんか	山のまわりの町に大きな被害をあたえました。2名死にました。
しょうわ(昭和)	10～13年	1935～38年	小ふんか	1935・1937・1938年に小さなふんかや活動がありました。
しょうわ(昭和)	17年	1942年	中ふんか	中ふんかではいがふり、山頂に大きなわれ目ができました。
へいせい(平成)	8年	1996年	小ふんか	昭和4年火口の中に2つの新火孔、火口原に約200mの火口列ができました。

駒ヶ岳の歴史時代の噴出物

駒ヶ岳は、先に「■火山噴火の記録」で説明しているとおり、1640年から現在までに少なくとも３回の大噴火を起こしています。駒ヶ岳周辺にはそれらの噴火で噴出したものが、地表に広く堆積しています。右の図は、これらの噴出物の分布を示したものです。

火砕流（軽石流）によって、埋めつくされた範囲

	昭和４年（1929年）の火砕流
	安政３年（1856年）の火砕流
	寛永17年（1640年）の火砕流

火砕流の火山灰・軽石などで埋めつくされた範囲を示したものです。火砕サージはこれよりもやや広い範囲に広がったと思われます。

降下火砕物（降った火山灰・軽石）が厚く積もった範囲

10cm	昭和４年（1929年）の噴火で厚さ10cm以上火山灰・軽石が積もった範囲
1m	昭和４年（1929年）の噴火で厚さ１m以上火山灰・軽石が積もった範囲
10cm	寛永17年（1640年）の噴火で厚さ10cm以上火山灰・軽石が積もった範囲
1m	寛永17年（1640年）の噴火で厚さ１m以上火山灰・軽石が積もった範囲

これ以外にも、安政３年（1856年）などの噴火で大量の降下火砕物が駒ヶ岳の東斜面に積もっています。

泥流・土石流の流下

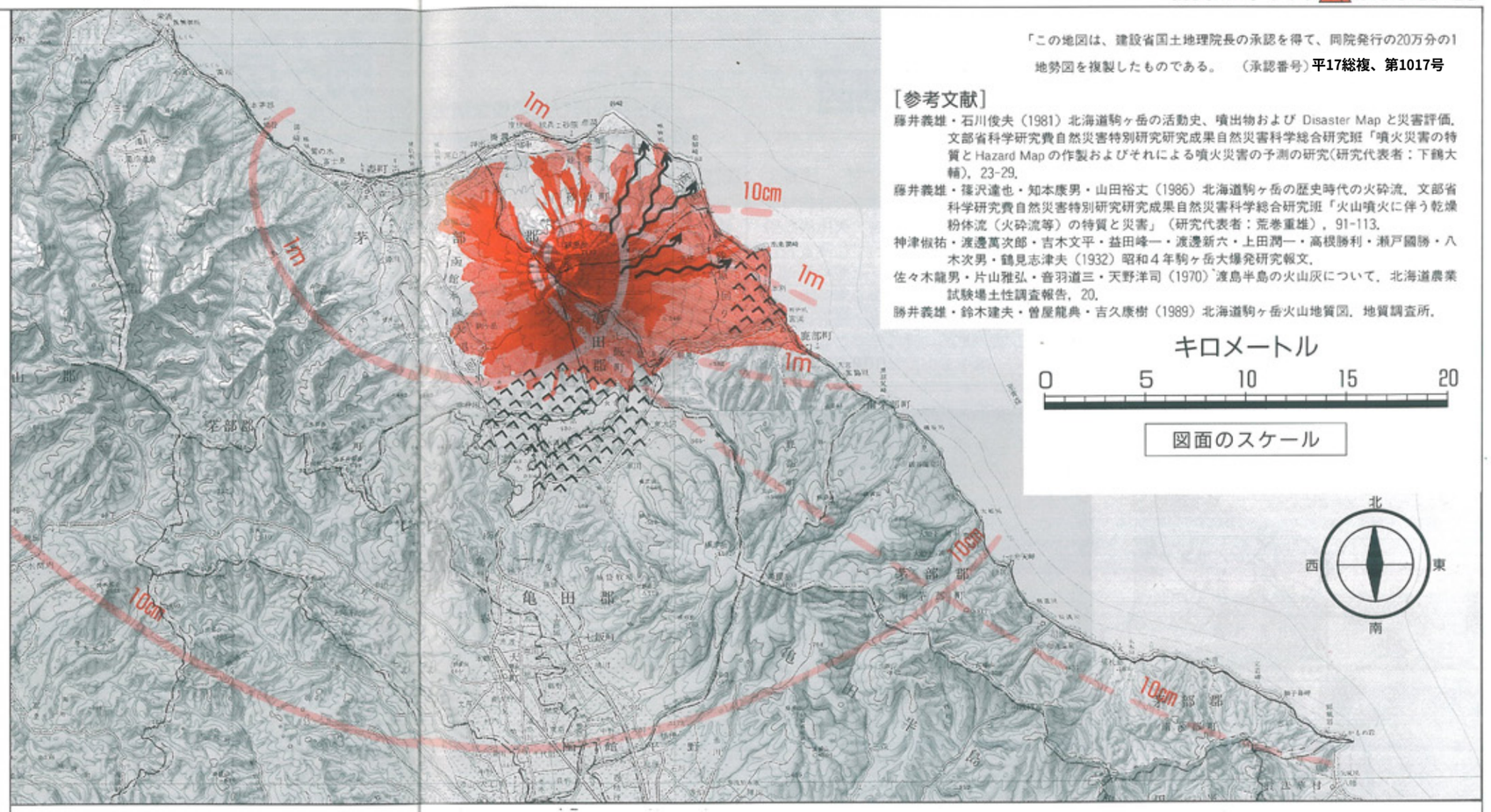
	昭和４年（1929年）噴火後の泥流・土石流

このほか、寛永17年(1640年)の噴火後に発生したものをはじめとして、駒ヶ岳の斜面では泥流・土石流が何回か発生しました。

岩屑なだれで埋めつくされた範囲

	寛永17年（1640年）の岩屑なだれ堆積物

寛永17年（1640年）の噴火では山頂部が大規模に崩れ東及び南側の山麓に土砂・岩塊が堆積し、多くの小山を形成しました。記録にある噴火では、岩屑なだれはこの噴火の時にしか発生していません。



「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図を複製したものである。（承認番号）平17総複、第1017号

［参考文献］

藤井義雄・石川俊夫（1981）北海道駒ヶ岳の活動史、噴出物および Disaster Map と災害評価．文部省科学研究費自然災害特別研究研究成果自然災害科学総合研究班「噴火災害の特質と Hazard Map の作製およびそれによる噴火災害の予測の研究（研究代表者：下鶴大輔），23-29．

藤井義雄・篠沢達也・知本康男・山田裕丈（1986）北海道駒ヶ岳の歴史時代の火砕流．文部省科学研究費自然災害特別研究研究成果自然災害科学総合研究班「火山噴火に伴う乾燥粉体流（火砕流等）の特質と災害」（研究代表者：荒巻重雄），91-113．

神津椒祐・渡邊萬次郎・吉木文平・益田峰一・渡邊新六・上田潤一・高根勝利・瀬戸國勝・八木次男・鶴見志津夫（1932）昭和４年駒ヶ岳大爆発研究報文．

佐々木龍男・片山雅弘・音羽道三・天野洋司（1970）渡島半島の火山灰について．北海道農業試験場土性調査報告，20．

勝井義雄・鈴木建夫・曽屋龍典・吉久康樹（1989）北海道駒ヶ岳火山地質図．地質調査所．

駒ヶ岳火山災害のミニ用語辞典

- **火砕流**　火山から噴出された高温の火山灰・軽石・岩片・火山ガスなどが、斜面を急速に流下する現象。温度は数百℃に達する。駒ヶ岳では、軽石が多く含まれるため、**軽石流**と呼ぶことが多い。
- **火砕サージ**　火砕流より軽石・岩片が少なく、高速で高温の砂嵐のような現象。
- **泥流・土石流**　土砂・岩塊などが、水と混ざりあって、高速で谷を流れ下る現象。谷の出口では氾濫を起こす。一般には大雨の時に発生するが、火山噴火で火山灰が積もったときには、多少の雨でも発生する。これを**火山泥流**と呼ぶこともある。また、冠雪期には、噴火によって雪が一気に溶けて、泥流が発生することもある。これを**融雪泥流**と呼ぶ。
- **火山灰**　火口から放出される細粒の噴出物で、直径2mm以下のもの。
- **軽石**　火口から放出される多孔質の噴出物。
- **カルデラ**　大規模な噴火によって、山頂部が吹き飛ばされたり、陥没したりしてできる山頂部の凹地（ただし、直径約2km以上のもの）。駒ヶ岳では、寛永17年(1640年)の噴火によって、山頂部が東方向へ崩落し、東側に直径約2kmの馬蹄形の火口ができた。これを**馬蹄形カルデラ**と呼ぶことも
- **岩屑なだれ**　火山噴火や地震動によって、山体斜面が大規模に崩落する現象。駒ヶ岳では、寛永17年（1640年）の噴火によって発生し、崩落した土砂・岩塊は海にまで達し、津波が発生して、内浦湾沿岸で700人余りが溺死した。
- **噴煙**　火山ガス・火山灰・軽石などが火口から噴出し生ずる煙。噴火の際には、火口の上空に**「噴煙柱」**が形成される。
- **噴気**　火口や山腹の割れ目から立ち上る火山ガスや水蒸気など。水蒸気が水滴となって白い煙のように見えることが多い。
- **空振**　火山の爆発で起こる空気の振動。空振によって窓ガラスが破損することもある。
- **マグマ**　地下に存在する岩石が融けたもの。高温。これが、地表に現れたものを溶岩と呼ぶ。
- **溶岩**　マグマが地表に現れたもの。冷えて固まったものも溶岩と呼ぶ。溶岩の粘性（粘り気）が大きい場合には流れ出ないで**溶岩ドーム**を形成する。逆に粘性が小さい場合には**溶岩流**が生ずる。
- **溶岩ドーム（溶岩円頂丘）**　粘性の大きい溶岩が噴火口上に盛り上がってドーム状の山体を形成したもの。駒ヶ岳では安政３年（1856年）の噴火で小型の溶岩ドームが形成されたが、その後の噴火で消失した。

駒ヶ岳火山噴火災害危険区域予測図

駒ヶ岳が再び大規模な噴火
場合を想定して、過去の噴火
形・気象などの条件から、危
測しました。
駒ヶ岳で注意すべき火山災
つです。

を起こした
の様子や地
険区域を予

害は右の4

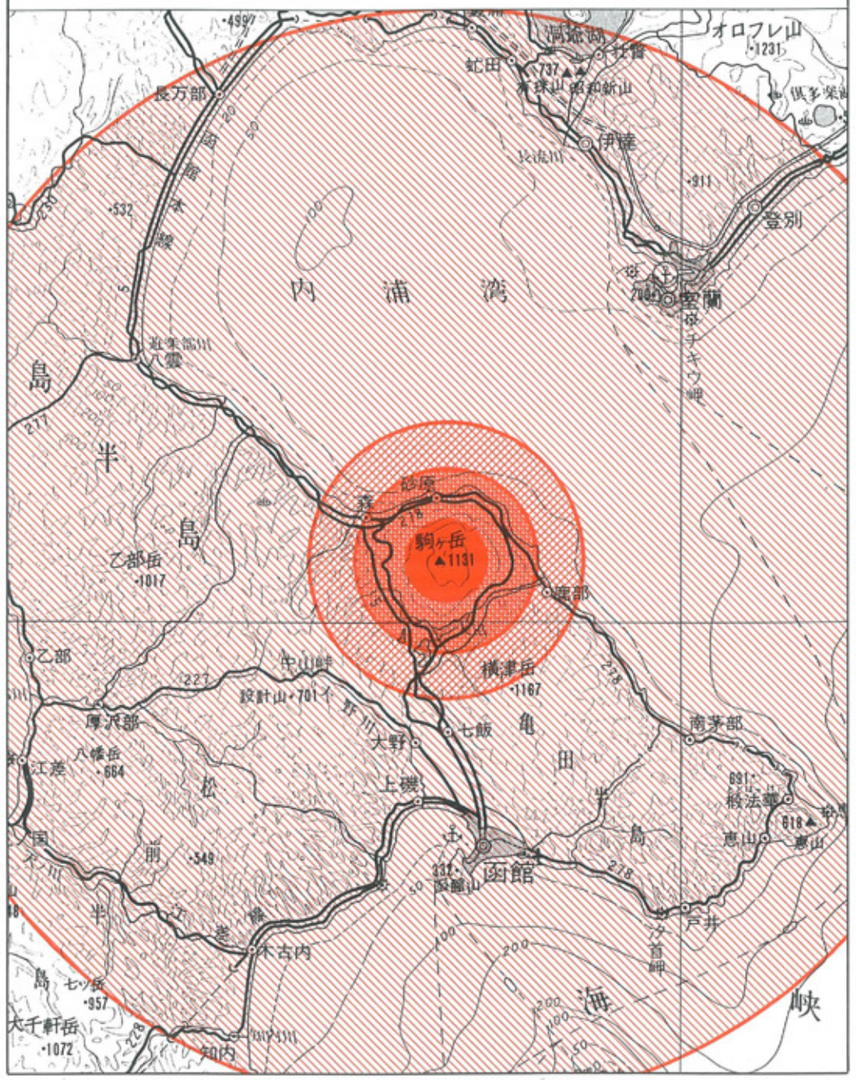
①降下火砕物

	危険区域A 直径1.5mの岩塊がまれに落下する
	危険区域B 風下方向では、直径15cmの岩片がまれに飛来する
	危険区域C 風下方向では、火山灰や軽石が厚さ1m以上積もる可能性がある
	危険区域D 風下方向では、火山灰や軽石が厚さ10cm以上積もる可能性がある

大規模な噴火でも火砕物（火山岩塊・岩片・軽石・火山灰など）は下記の円内すべてに降るわけではありません。上空の風は、1年を通じて西から東へ吹くことが多く、火山灰・軽石は駒ヶ岳の東側に降る確率が高い。
風下方向では噴火が始まって10分から数十分のうちに灰などが降り始めます。

0 10 20km

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分の1日本　を複製したものである。（承認番号）平17総複、第1017号



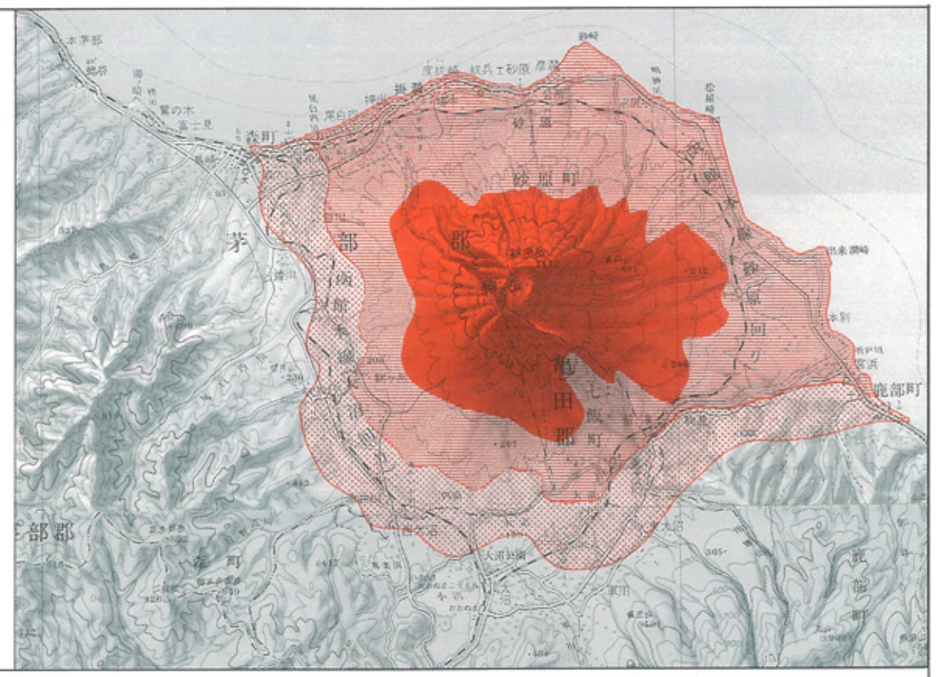
②火砕流（軽石流）、火砕サージ

	危険区域A 中小規模の噴火でも火砕サージが到達する可能性がある
	危険区域B 大規模な噴火では火砕流によって軽石等につくされる可能性がある
	危険区域C 大規模な噴火では火砕サージによって災害が発生する可能性がある

火砕流は噴火開始後、数時間以内に発生することが予想されます。
火砕流は斜面を流れるとき、谷沿いに流下することが多い。
また、火砕流が海に流入すると、そこで新たに爆発を起こすことがあります。

0 1 2 3 4 5km

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図を複製したものである。（承認番号）平17総複、第1017号



③泥流・土石流

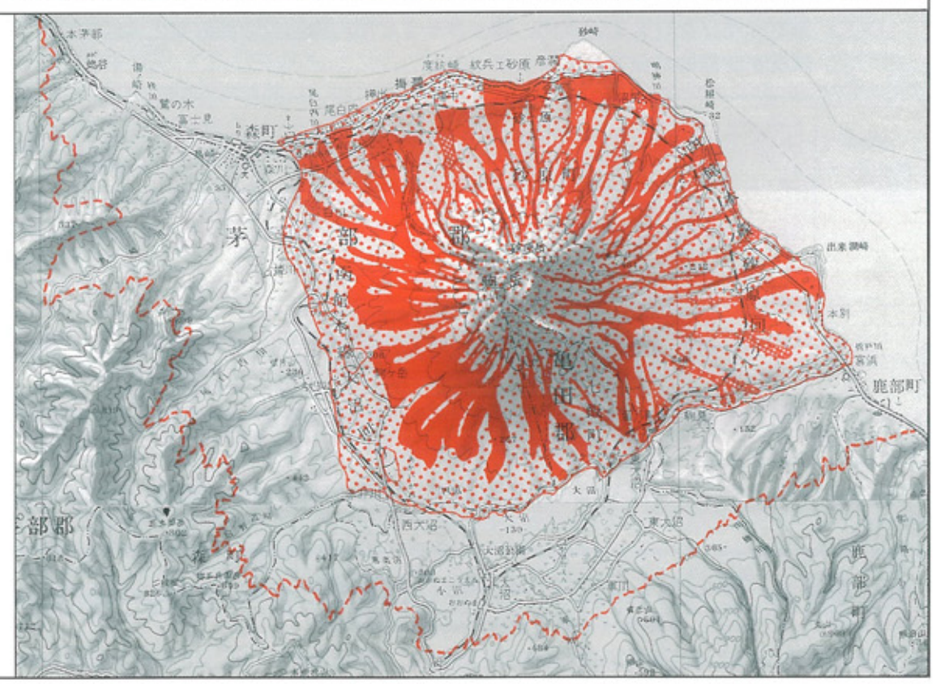
	危険区域A 噴火後の降雨で泥流・土石流が発生する可能性が大きい
	危険区域B 噴火後の降雨で泥流・土石流が発生する可能性がある
	危険区域C 積雪期の噴火で火で発生する泥流によって浸水する可能性がある

火山灰が降り積もったところに降雨があると泥流・土石流が発生します。
積雪期には、降雨がなくても、泥流・土石流が噴火後数時間以内に発生することも考えられます。
泥流・土石流は主に谷部を流れ下り、平坦地で氾濫する場合が多くあります。

④岩屑なだれ

	岩屑なだれが到達する可能性のある区域（破線の内側の区域）

岩屑なだれが発生するとは可能性は低い。もし発生した場合でもある限られた方向で起こるため、その影響が全域に及ぶことはありません。
大規模な噴火があった場合でもこの区域内すべてが危険なのではありません。

[駒ヶ岳で注意すべき火山災害]

①降下火砕物	空中へ放出された火山岩塊・岩片・軽石・火山灰などが地表に降ってくるもの。
②火砕流（軽石流）、火砕サージ	火砕流は、高温の軽石・火山灰・火山ガスなどからなる混合物が火口付近から斜面を流下するもの。火砕サージはガスが多く高速。
③泥流・土石流	火山灰で覆われた所に雨が降ると発生する場合がある。また、積雪期に火砕流などの熱で一気に融雪し発生する場合がある。
④岩屑なだれ	火山体の斜面の一部が大規模に崩落する現象。